

こどもの自殺対策に関する関係省庁連絡会議（第5回）
議事概要

日 時 令和5年9月5日（火）15：15～16：00
場 所 こども家庭庁長官官房第二会議室
出席者 ※ [] は代理出席者
議 長 内閣府特命担当大臣（こども政策 少子化対策 若者活躍 男女共同参画）
議長代理 こども家庭庁長官
副議長 こども家庭庁支援局長
構成員 内閣官房孤独・孤立対策担当室長
同 警察庁生活安全局長[生活安全局生活安全企画課長]
同 こども家庭庁成育局長 [成育局総務課長]
同 長官官房審議官（支援局担当）
同 消防庁次長 [救急企画室長]
同 法務省人権擁護局長
同 文部科学省初等中等教育局長 [文部科学戦略官]
同 厚生労働省社会・援護局長

（議事次第）

1. 小倉大臣挨拶
2. 「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づく取組の進捗状況について
3. その他

（配布資料）

- 資料1-1 こどもの自殺対策緊急強化プランに関する概算要求のポイント
資料1-2 令和6年度予算概算要求におけるこどもの自殺対策関連予算の状況について
資料 2 こどもの自殺対策に係るこども・若者からのヒアリング概要（案）
資料 3 内閣官房孤独・孤立対策担当室提出資料
資料 4 文部科学省提出資料
資料 5 厚生労働省提出資料
- 参考資料1 こどもの自殺対策緊急強化プラン
参考資料2 「経済財政運営と改革の基本方針 2023」（令和5年6月16日閣議決定）（抄）
参考資料3 「今後5年程度を見据えたこども施策の基本的な方針と重要事項等～こども大綱の策定に向けて～（中間整理）（案）」（第8回こども家庭審議会基本政策部会配布資料）（抄）
参考資料4-1 令和5年度自殺予防週間 4大臣連名メッセージ（こども・若者向け）

（議事概要）

○開会にあたり、小倉大臣より以下のとおり挨拶があった。

こどもが自ら命を絶つようなことのない社会を作らなければなりません。令和4年の児童生徒の自殺者数が514人と、過去最多となったことは、こどもまんなか社会の実現を目指すこども家庭庁としても大変重く受け止めています。

そのため、この関係省庁連絡会議を開催し、有識者・当事者の皆様等からご意見を伺ったうえで、6月2日に「こどもの自殺対策緊急プラン」をとりまとめたところであります。

本日は、プランに基づく各施策の進捗状況、とりわけ概算要求の状況を中心に御報告いただきたいと思っております。

こどもが自ら命を絶つようなことのない社会の実現に向けまして、改めて関係省庁の皆様と認識を共有し、引き続き、ワンチームとなって政府一丸でこどもの自殺対策に向けた取組をしっかりと進めてまいりたいと考えておりますので、御協力よろしくお願いいたします。

○各省庁から、先般とりまとめた「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づく施策の進捗状況、特に概算要求の状況を中心に説明が行われた。

○厚生労働省から「ゲートキーパー」に関するeラーニング教材について説明が行われ、動画の一部を視聴した。

○最後に、小倉大臣から以下のとおり挨拶があった。

本日は、こども家庭庁が司令塔となって本年6月に取りまとめました「こどもの自殺対策緊急強化プラン」に基づく関係省庁の取組の進捗を御報告いただきました。来週の自殺予防週間を前に、こどもの自殺対策に関する取組の重要性について、改めて認識を共有することが出来たと思っております。

また、概算要求についても、関係省庁においてしっかりと対応いただき、かなりの拡充をすることができたと考えております。例えば、文部科学省におきましては、1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の導入を全国の学校で推進するための予算、6億円を新たに計上いただきました。また、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実のための予算も、今年度予算82億円から増額し、90億円を計上いただいております。

また、厚生労働省におきましても、地方自治体及び民間団体における電話・SNS相談の実施、ゲートキーパーの養成・支援のほか、都道府県等が、多職種の専門家により構成される「こども・若者の自殺危機対応チーム」を設置する際にも活用していただける予算を52億円と、今年度予算35億円から更に拡充して計上いただいております。

こども家庭庁においても、こどもの自殺に関する情報を収集、集約し、多角的に分析するための調査研究を実施する予算を新たに計上したところであります。また、自殺対策室の体制強化として、専任の管理職及び職員の配置に係る機構・定員要求を行っております。これも本年6月に「緊急強化プラン」を取りまとめた成果の一つだと考えていますが、このプランの推進に、積極的に御協力をいただきました関係省庁の皆様には、改めて感謝申し上げます。

他方で、地方自治体や学校に、この予算をしっかりと活用していただければ、せっかく計上した予算も絵に描いた餅に終わってしまいます。各省におかれましては、今回の概算要求の内容を地方自治体等に、丁寧に説明いただければと思います。

私自身も、関係する大臣と相談した上で、この概算要求に盛り込まれた事業、特に「自殺危機対応チーム」の設置を呼びかけるメッセージを発動したいと思います。

また、このメッセージでは、本日の会議で一部視聴させていただきました「ゲートキーパー」に関するeラーニング教材の受講についても呼び掛ける予定であります。地域において自殺対策を推進していくためには、各自治体のトップの皆様には「ゲートキーパー」の重要性を御理解いただくことも大切だと考えております。我々ももちろん受講する予定ではありますが、各自治体のトップの皆様にも積極的な受講を呼び掛けていきたいと思っております。

繰り返しになりますが、こどもが自ら命を絶つようなことのない社会を作らなければなりません。今、この瞬間も、この国では自ら思い悩み、そしてSOSを発信することもできない、そのようなこどもたちがたくさんいることを、我々はきちんと考えていかなければなりませんし、そこに救える命があることも考えていかなければなりません。

そうした観点に立って、今後も、こども家庭庁としては関係省庁と連携し、政府一丸となってまったなしの課題であります、この問題に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続き、御協力お願い申し上げます。

(以上)